沖縄県サンゴ礁保全推進協議会・第１回将来委員会議事概要

●日時：平成 27 年 7 月 24 日（金）14:00～17:00
●場所：沖縄県　県庁 14 階会議室
●出席者：八重山サンゴ礁保全協議会（吉田稔）、中野義勝、WWF ジャパン（権田雅之）、自然保護・緑化推進課（謝名堂聡）、西平守孝、沖縄エコツーリズム推進協議会（花井正光）、藤田喜久、佐藤崇範
●事務局：沖縄県環境生活部自然保護・緑化推進課（出井航、中村章弘）
●運営委員：沖縄県環境科学センター（山川英治）

【アンダーライン部分が決定事項】
【「・」は説明事項および提言事項】
【「→」は説明事項や提言事項に対する意見】

（１）今後の協議会をどのようにしたらよいか、各委員からの意見

【NPO 化や運営資金について】

・お金が無くなると、協議会を維持できなくなるので、何らかのお金を集める方策を考える必要がある。そのためには NPO 等の組織にする必要があると考える。

→財源がなくなるので、というところからスタートするのはいかがなものかなと思う。NPO として運営していくことは大変だということは認識しておく必要がある。この協議会の運営体制、参加団体が団体独自に活動することを主体として展開していくのかどうかなど、協議会立ち上げ時にどんな考え方だったかということも考慮したほうがよいと思う。将来委員会では協議会の役割を振り返る必要があるのではないか？

→これまでお金がなくても運営してきた時期もあった。これまでの振り返りから、お金がない時のやり方、ある時のやり方、いろいろなケースを考えることができると思うのでこの委員会で考えていけばよい。

→必ずしも NPO などの形にこだわる必要はないと思うが、作業への報酬などボランティアベースでは難しい部分があると思う。

→全体的なビジョンをしっかりと定められれば、資金がないときにはそれに応じて活動していけると思うので、必ずしも形にこだわる必要はないのかなと思う。

→運営はしっかりしていると思う。運営費については、運営を外にお願いするのであれば、収益構造が必要だと思う。

→困ったときに相談ができる組織として貴重。事務局が常駐する必要があるなら、資金がネック。

→各地で色々と活動している会員が、それぞれの持っているノウハウを会員に与え合ったり、互いにサポートしていくことは、やり方さえ考えておけば、お金が無くてもできるかもしれない。

・収入をどのように得るのかということを考えていく必要はあると思う。

・任意団体という形だと、会の運営に支障をきたす可能性がある。

【将来委員会について】

・協議会が設立以来何をやってきたか、今の活動内容が身の丈にあっているか考えてみてはどうか？将来構想委員会ではこれまでの活動を改めてレヴュウし、将来まで見通した議論が必要ではないか？そのための議論をする場所がこれまではなかったが、それが将来構想委員会に求められている仕事だろう。

・将来構想委員会では細かいことを決めるのではなく、各委員会が活動する際に考えておいてもらいたい太い流れを議論して決めていけばいいと思う。

・サンゴ礁保全活動には多様な意見があることを包容力のある姿勢で受け止めた上で、急がず、しかしのんびりもし過ぎずに、太いところだけを決めて、微細なことについてはそれぞれの委員会の領分と理解した上で、大筋を決めていけたらよいと思う。

【協議会の理念や役割について】

・「県」の協議会としてどのようなスタンスをとるのか、再確認する必要があるのではないか。地域レベルでの具体的な活動をしっかりサポートできる組織であるというＰＲが必要だろう。

・設立当時から、どこにも属さないような立場で（中立的に）、「サンゴ礁保全」のもとにみんなが集まっている。この持ち味をそのまま活かしていくためには何ができるか考えていくのがいいのではないか。

・サンゴ礁保全にはいろいろなやり方や考え方があって、それを全部受け入れるのがこの協議会だと理解している。

・協議会として、サンゴ礁保全にはどういったアクションがあるのか、ということはしっかりと練っておいた方がよい。色々な活動があるなかで、各協議会メンバーがサンゴ礁保全についてどういう部分を担っているのか、しっかりと全体の計画や活動のなかに位置づけていって、それぞれ活動を続けている人が「この部分を担って下さってます」と協議会からいうことができればいい。

・サンゴ礁ウィークなどの活動もあり、協議会の柱、全体的にまとまっていくための流れがなんとなくみえているような気がしている。

・主体性のない組織（多様な考えの方が集まれる組織）は、存在意義がある。

・総会等の参加者が少ないので、検討すべき課題。ただ、会員の皆さんが何を求めているのか情報を把握したうえで、今後の展開も判断すべきと感じる。

・いろんな側面から行われている保全活動を、いろんな角度から包括的に考えてみるというのも、この協議会の役割だと思う。

【協議会の運営体制について】

・理事の数が多い。理事や委員会などそれぞれの役割や仕事をこなす必要がある。

・まだ余力があるうちに団体としてお金をうまく回して、次の世代に引き継げるような状況にしないといけないと思う。協議会のメンバーに若い人がどんどん入ってこないのはよくない

かなと思う。

・何を、どこをめざしているのか、そのために誰がどのような分担をしていくのかがまだばらばらなので、そこを議論してまとめていく必要があると思う。

【協議会の名称に「推進」が付いている点について】

・「推進」には過渡的なイメージがある。今後、「推進」が取れることがあるのか？

→間断なく取組まなければいけない、という意味が込められた名前だと理解している。保全の推進に終わりはないと思う。

→「利用」についても、検討していた当時から議論になった。その際、「保全」の中にはワイズユースも含まれているという理解だった。

→内部では問題ない場合でも、外部からみて分かりにくいなという状況ではまずい。哲学を壊すこと､外すことなく､外向けにもっと分かりやすくするというのは大変重要なことなので、今後議論してもいいと思う。

（２）協議会の振り返り

・県の事業として、2 年間の準備期間を経て設立された。準備委員会で相当時間をかけて練ったのが趣意書。趣意書の一言一句をものすごく議論した。趣意書に沿った目標目的を設定する必要がある。

・設立総会の時は、様々な人が参加し、議論がぶつかり合うことがあった。今は議論がない。

・設立当初、「なんでもうけとめますよ」という設立趣旨が理解してもらえていなかった。伝わりにくい気がする。

・先行している活動を妨害しないようにしましょう、というしばりが当初からあった。

（３）協議会の活動について

・サンゴ礁ウィークは協議会の理念をうまく反映した 1 つの活動の形。

・メンバーの活発な活動をけん引するためには、協議会自体が活発化する必要がある。

・いろいろなイベントの際の後援について、協議会としてのメリットを捉えて、もっと PR するといい。サンゴ礁ウィークでも参加団体にもっと協議会を PR してもらうとよい。

・安対協から引き継いだフォトコンテストも来年からどのように実施していくか考えていかなければいけない

→今までのフォトコンテストと同じレベルでやってはだめだろう

・サンゴに関わっている関連企業の参加（イベントや会員）があまり多くない。施策推進側が流れを作ってもらうといい。

・理事がもうちょっと頑張らないといけないかもしれない。サンゴ礁ウィークに理事が 1 つイベントをするだけで、多くの数になる。

・海で遊んだり魚を取って食べたり、日常の経験が保全の気持ちを育てる。そのためには、草の根的な活動が重要。そんな活動をたくさん増やす必要がある。

・サンゴ礁ウィークを恒例の行事として、進めていく形を作っていくことが先決だと思う。それに関連させて、表彰や交流会などについても派生的に考えていくのがよいと思う。
・沖縄県自然保護・緑化推進課が事務局をしていることは非常に意義がある。

【会員サービスについて】
・会員が参加する仕組みが必要。会員同士をつなぐ仕組み。
・プラットフォームの役割を果たすことについて、もうすこし推し進めることを考えるべき。
・会員の要望などを汲み上げる仕組み等が必要なのではないか？
→理事の仕事の１つでもある。
→全ての意見を汲み上げることはコストが掛かり過ぎ、いろいろな意見があるので、それを全て反映することはできない。
・サンゴ礁に関する教育の機会を協議会が提供できるようになれば、人も集まってくると思う。
・協議会の会員には活動をもっていない方もいる。サンゴ礁保全について、何かをしたいけど、何をしたらいいのか分からない会員がいる。協議会の会員になることで、活動を持ってない方がサンゴ礁保全に関わる方法を検討できないか。
→会費がないので、会費を支払うことでサンゴ礁保全に貢献した気になることもない。
→サンゴ礁保全の具体的な活動についての情報が web にもない。
→活動している団体にメールや電話で直接問い合わせないと、実際に関われない。
・行政が運営する「サンゴ礁保全カフェ」のような、ここにくればサンゴ礁保全については全部わかりますというような、場所ができるとよい。
・思いつくことをやれることからやるしかないのでは。ただ、単発でではなく、連携・関係性を考えてパッケージとしての仕掛けができたらいいと思う。

【交流会について】
・サンゴ礁ウィークというのは、今後も大きな柱になっていくと思う。交流会をどうしていくか真剣に考える必要がある。協議会の規約の中に「表彰」とあるが、これをもっと活かしていけたらよいのではないか。
→交流会は総会といっしょにやるからだれも来ないのでは。まつりのようにしたらいいのでは？
→まつりをしたり、イベントをしたりして人を巻き込んでいって PR していくのは今からの活動で大切だと思う。
→産業まつりでブースを出してもよいのでは？
→参考になる活動は色々あるので（コンベンションでの科学展や海辺フォーラムなど）、それらも参考にして交流会を企画していけたらよいのでは？
→良い活動についてはこちらからおしかけていって表彰させていただく方法を検討してもよいかもしれない。

（４）次回の将来委員会について

・議事概要を理事へ

・次回の将来委員会では具体的な目標やスケジュールなどを議論する。そのための宿題を事前に出す。

・資料は当日配布するかどうか周知する。